

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学概論		重 しほ子		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2 (3 0)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもの特徴 子どもを取り巻く環境 倫理				
到達目標	小児看護の対象である子どもを理解する。小児看護の役割を理解する。 小児期の成長・発達を理解し小児各期の特徴を理解する。 小児を取り巻く環境、現代の家族や社会の特徴を知り家族の機能を促進させる看護を理解する。 発達段階に応じて小児が健康な生活を送るための看護を理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	小児看護の目ざすところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割
2	小児と家族の諸統計 わが国の人口構造 出生と家族 子どもの死亡
3	小児看護の変遷 小児医療・看護の変遷
4	小児看護における倫理 子どもの権利 医療現場で起こりやすい問題点と看護
5	小児看護の課題 疾病構造の変化と小児看護 社会の変化と小児看護 小児看護の専門分化
6	子どもの成長・発達 小児看護における発達論 成長・発達の進み方
7・8・9・ 10	新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期 形態的・身体生理の特徴 各機能の発達 養育および看護 グループワーク プレゼンテーションの準備
11	グループごとの発表
12	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 児童福祉 母子保健 医療費の支援
13	予防接種 学校保健 食育 特別支援教育 臓器移植
14	子どもの虐待と看護 障害のある子どもと家族の看護
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅰ		重 しほ子・榎木 美幸 久米 研悟 堀之内 健祐		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。 本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	小児に特徴的な健康障害と疾患について理解し、病気・障がいを持つ子どもと家族の看護について学ぶ。				
到達目標	小児の健康障害と疾病を理解する。 疾病・障がいを持つ子どもと家族の看護、状況に特徴づけられる看護、疾病の経過と看護を理解する。 小児に特徴的な健康障害と疾病の看護を理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	染色体異常 ハイリスク新生児 代謝性疾患 内分泌疾患
2	免疫・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 感染症
3	呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患
4	血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器疾患
5	神経疾患 運動器疾患 皮膚疾患 眼・耳鼻咽喉疾患 事故・外傷
6	病気・障がいを持つ子どもと家族の看護 病気・障がい子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 健康問題をもつ子どもの家族の看護
7	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 入院中 外来 在宅療養中 災害時 子どもにおける疾病の経過と看護
8	染色体異常と看護 代謝性疾患、内分泌疾患と看護
9	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 感染症と看護
10	呼吸器疾患と看護 循環器疾患と看護
11	消化器疾患と看護
12	血液・造血器疾患と看護 悪性新生物と看護
13	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 神経疾患と看護 精神疾患と看護
14	運動器疾患と看護 事故・外傷と看護
15	まとめ・終講試験
履修上の要件	
テキスト 教材 参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅱ		重 しほ子 長井 安代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもと家族への看護 (検査・処置に伴う技術と看護 プレパレーションと看護) 疾患と看護				
到達目標	子どものアセスメントに必要な知識と技術を理解できる。 検査・処置を受ける子どもと家族の看護、援助の方法がわかる。 健康障害のある子どもに出現しやすい症状と看護を理解できる。 小児看護の特徴を捉えた看護過程が理解できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容		
1	症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・チアノーゼ ショック・意識障害		長 井
2	症状を示す子どもの看護 けいれん・発熱 嘔吐・下痢・便秘・脱水		
3	症状を示す子どもの看護 出血・貧血 発疹・黄疸 浮腫		
4	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 総論（子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際）薬物動態と薬用量の決定 プレパレーション		重
5	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術（小児のバイタルサイン測定） 身体的アセスメント		
6	技術と看護 （注射 与薬 小児の輸液療法 輸液療法中のシーネ交換・吸入療法の実際）		
7	技術と看護 （採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺・抑制・罨法・浣腸）		
8	技術と看護 （酸素療法・吸入・吸引・経管栄養・救命処置）		
9	技術と看護の演習（プレパレーションの実際）		
10・11 12・13・14	看護過程		重
15	まとめ 終講試験		
履修上の要件			
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野	小児看護学概論・小児臨床総論 医学書院 小児臨床看護各論 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験 看護過程		
備考			